

麦作情報 第2号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

11月中旬から12月初旬にかけての気象は、平年に比べ、気温や日照時間は平年並みからやや低く、降水量はおおむね低く推移しています。播種は、11月14日頃から、大麦が11月16日頃から始まり、11月に播種された麦は、出芽揃いもよく順調に生育しています。向こう3カ月の気象予報では、気温がやや高くなっており、以下のことに留意しながら栽培管理を行いましょう。

1. 排水対策

排水対策は、地表排水と地下排水の組み合わせで行いますが、地表からの排水が7割を占めますので、うね溝と周囲溝と排水口をつないで地表水を速やかに排出させることが重要です。まだ整備をしていない場合は、早めに行ってください。



【周囲溝と排水溝をつなげたほ場】

2. 晩播対策

麦の晩播限界は、小麦が12月15日、大麦が12月20日です。遅い播種は、初期生育が著しく劣るため、播種が遅れている場合は、播種量を増やして下さい。

○播種限界日以降の播種量 基準よりも3～5割増やします。

品種名	播種量(10a 当り)	大豆後作の播種量(10a 当り)
チクゴイズミ ちくしW2号	10kg	8kg
はるさやか	10～11kg	8～9kg

○小麦のシロトビムシ対策

シロトビムシ類（主にヤギシロトビムシ）は、気温が低下すると活発に活動し、小麦の幼芽・幼根の食害を及ぼします。12月の播種は、注意が必要です。

過去に被害が発生したほ場では、トリフミン水和剤（種子重量の0.5%種子粉衣）に加えて、アドマイヤー水和剤の使用（種子重量の0.15%種子粉衣）を行ってください。

○雑草防除（10aあたり）

除草剤名	薬量	散布液量	使用時期
ムギレンジャー乳剤	300～600ml	50～100ℓ	播種後～出芽前 (雑草発生前)
ボクサー	400～500ml	70～100ℓ	播種後～麦2葉期まで (雑草発生前～発生始期)
リベレーターフロアブル	60～80ml	100ℓ	播種後～麦3葉期まで (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)

3. 11月に播種したほ場での管理作業

○麦踏み

麦踏みは耐寒性の強化、分けつ促進、倒伏防止および早期茎立ち抑制のために行う作業です。本葉4枚目が出る頃（11月中旬播きでは12月下旬）から始め、晴天が続いて土壤が乾燥している日の午後、茎葉の水分付着が少ないときを選んで数回行ってください。茎葉に霜や露があるときに行うと損傷が大きく、土壤水分が高いと土壤をしめつけて麦の生育をさまたげるので、このような場合には行わないようにしましょう。

○土入れ

土入れは、雑草防除、倒伏防止、無効分けつの抑制及び湿害防止の効果があります。乾燥が続いて土壤がよく乾いたときに行います。また、麦踏み前に行い、麦踏み直後には実施しないようにしましょう。1月以降～3月上旬までに2～3回行ってください。

（1回目は浅く、麦の生長が進むと土の量を増やす）。